

生徒指導にかかわる取組

上越市学校教育研究会

1 市学校教育研究会の取組

市内各小学校と中学校の生徒指導部員を中心とする研究会が組織されている。年1回全体研修会が開催される。本年度は最初に「上越市の虐待防止支援体制について」上越市子ども課の臨床心理士の方から情報提供を受けた。児童虐待は上越市でも年々増加傾向にあることや虐待の判断が難しいので複数の目で見ることの大切さを再認識した。また、現在『子どもの虐待防止ハンドブック』を作成中とのことであった。

その後「子どもの社会性をどう育むか」をテーマに、新潟産業大学教授秋山正道先生の講演をお聞きした。人間関係の希薄化の進行、生活体験や自然体験の喪失、間接体験・疑似体験の増加、また、社会性や自己責任の観念が十分に育まれず、社会で許されない行為は子どもでも許されないという認識が身に付いていない等を話された。そして、その解決の方向として、授業での話し合い学習で自分の考えをしっかりと持たせる工夫をしているか、また、縦割り班活動はなぜ行っているのかを高学年は理解しているか等の日々の心を育てる授業や目的を認識させた活動の重要性を説明された。

最後に参加者が小グループに分かれて持ち寄ったレポートを元に話し合いを行った。自己有用感を持たせる活動の工夫や中学校区での社会性育成の取組、挨拶運動などの地域連携、SST・SGEの取組などが話題となって活発な意見交換が行われた。

2 中学校区の取組

小・中が連携した取組がどの中学校区でも行われている。校長会（市内全小学校、各区単位、ブロック単位がある）では情報交換とその対応策について話し合われている。統一したテーマで共通実践している中学校区も多い。また、“いじめ見のがし0スクール運動”も地域を巻き込んだり、子どもを主体にした実行委員会方式の運営を行ったりしている中学校区が増えている。

3 地域や行政、大学との連携

(1) 地域青少年育成会議

各中学校区に設立されている。幼稚園・保育園から高校生までを対象にした子どもの健全育成を推進する組織である。保育園・幼稚園・学校・町内会・社会教育団体・PTA・民生児童委員・行政等の関係者代表が運営委員となっている。地域による違いはあるが、あいさつ運動や子どもたちの文化・スポーツ活動の支援、登下校の見守り活動等に取り組んでいる。

(2) JAST（上越安心サポートチーム）

学校だけでは解決困難なケースに対して、学校が主体となって早期解決できるように、チームによる支援を行うのが目的である。

編成は、市教委生徒指導担当主事、ソーシャルワーカー、特別支援教育担当指導主事、教育相談部長、人権教育担当指導主事、市顧問弁護士（必要に応じて）からなっている。

諸問題に対して校長がサポートチーム形成を市教委に要請する。最近では、携帯電話等の普及により問題行動が一つの学校に止まらないで広域化していることへの対応や児童虐待、発達障害を抱えた子どもたちへの対応等に大きな力を発揮している。

(3) 上越教育大学

上越教育大学教職大学院の学校支援プロジェクトで、学級づくりや人間関係づくり、授業支援に大学院生が大学教授の指導を受けながら直接学級に入って支援を行う。

学校の具体的支援要請に従って、準備期間を経て実際には二学期から担任と連携しながら様々な取組を行っている。学級内の人間関係が良好になることにより、いじめやトラブルの減少と授業効率のアップに大きな効果が認められている。